



真の国際人とは？の問いにある著名人はこう答えた―何力国語話せるかではなく、自身の国、暮らす地をいかに説明できるかだ。

10月に「大分の明治維新」の番組を見る。歴史

好きなら、すぐ浮かぶ鹿児島や高知、山口、佐賀など。だが大分は空白？に近い。はて、維新の変革にわが

独立自尊



辻畑 隆子

開催。展示内容は東京・上野に引けを取らない。福沢より一ツ年下には、坂本龍馬、小松帯刀、天璋院篤姫、五代友厚、土方歳三などがいる。刀で戦う維新があるとするなら、福沢は学問を盾にペンで。彼が強調したことは、西洋にあつて日本にないものは独立、つまり「独立自尊」と。

身を乗り出して生きた若き世代はいたのか…と。

いた！「人を育てるにはまず教育」をと。チョンマゲの時代に海外を巡り、その五体の限りで刺激を受け吸収、自身磨きを。その人こそ福沢諭吉。「福沢諭吉―独立自尊へ」といたる道」と題して県立歴史博物館で

は西郷の「抵抗の精神」を、西郷は福沢の「学問のすゝめ」を高く評価していた。2人の共通点は、手仕事の器用さと、何事も質素であり平等意識を持っていたこと。幕末、維新の時代の福沢は顔写真が多いが、1枚ぐらい笑った写真があつてもよかつたのに。(彫刻家・日出町)

咸臨丸で同行しながら、福沢と勝海舟とは始終、反りが合わなかつたよう。その逆に西郷隆盛とお互いを尊重。福沢